

委員会で出された各委員の意見

【市民文教委員会】

委員間討議の際に委員会としての総意とはならなかったものの、各委員から出された評価意見や質疑の際に出た意見を取りまとめたものである。

点 検 評 価 項 目		評 価 に 係 る 意 見
1 ・ 1 ・ 3	子 育 て 環 境 日 本 一 を 目 指	<p>3 (1) ④ 個性を伸ばし児童生徒一人ひとりを大切に した学校教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・義務教育9年間を見据えたふさわしい学力の定着や人間性・社会性の育成に努められた。 ・G I G Aスクール構想が円滑に実施されている。 ・夢講演会はコロナ禍で難しいこともあったが、地域の課題学習や職場体験、また、市長のふるさと講義を評価する。 ・産業創造・雇用促進課と連携し、ふるさと学習をすることで、本市の特性を生かした産業創出ができるのではないかと期待する。 ・キャリアパスポートの活用により、小中高一貫した子どもの成長を目で見て確認できる。 ・各学校に、特別支援教育支援員を配置され、10月からは「スーパーバイザー」も導入され、計画どおり進められている。 ・コロナ禍によって、事業が困難な状況であり、計画通りの評価は難しいが、市民の理解がないと実施できない現状でもあり、その中での頑張りを評価する。 ・キャリアパスポートの取組は、自分自身の振り返りにもつながり、それぞれ個に合った取組につなげるためにも、有効であると考ええる。 ・小中一貫教育を通して、キャリアパスポート等を有効に活用し、個に応じた教育推進は、一定評価できる。 ・今後もキャリア教育を強化していただきたい。 ・不登校に関しては、現在の多様な不登校原因各々に向けて、さらなる新たな取組が必要である。 ・義務教育9年間の中で、不登校出現率がコロナ禍の影響などもあり、増加している点について、本市では、家庭訪問や個々の児童生徒に寄り添った支援をしていただいております。今後、専門性を有するSSWや本年から、スーパーバイザーによる総合的な観点からの取組を期待する。 ・不登校の出現率はかなり高く、「なぜ」なのか、もっと検証する必要があると考ええる。 ・不登校の解決では、コロナ禍で目標数値が達成できなかったこともよく理解するが、特段の対策を講じてはいないと感じる。明日葉、フリースクール等の連携は、常にあり、どのような充実に取り組んだのか分かりづらい。

委員会で出された各委員の意見

【市民文教委員会】

委員間討議の際に委員会としての総意とはならなかったものの、各委員から出された評価意見や質疑の際に出た意見を取りまとめたものである。

点 検 評 価 項 目	評 価 に 係 る 意 見
<p>す ま ち</p> <p>3 (2) ③ 家庭教育を支える仕組みづくりの推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な就学援助の充実に努められている。 ・P T Aと学校・教育委員会が連携して家庭教育の取組を支援している。 ・I C Tを活用した質の高い家庭学習を推進している。 ・学校と保護者等との連絡や配付物のデジタル化を導入している。 ・P T Aと学校等連携し「C o D M O N」も導入され、計画どおり進められている。 ・経済困窮者世帯への学習支援の継続と、I C Tを活用した家庭と学校の連携を評価する。また、学校だよりを活用した学習支援のさらなる充実にに向けた取組に期待する。 ・就学支援は確実に行われており、I C Tを活用した新たな取組も展開され、コロナ禍で苦しい中での対応を評価する。 ・P T Aと学校・教育委員会が連携し、家庭教育の取組を支援している。 ・家庭教育の取組の中で、家庭の教育力といった、ある意味大変パーソナルな課題（生活習慣）などに取り組むことの難しさを感じるため、さらなる工夫が必要ではないかと考える。 ・就学支援制度の周知については、小学校入学児童と小学校6年生の保護者への周知と同様に、毎年全ての児童・生徒のご家庭にも周知すべきだと考える。

委員会で出された各委員の意見

【市民文教委員会】

委員間討議の際に委員会としての総意とはならなかったものの、各委員から出された評価意見や質疑の際に出た意見を取りまとめたものである。

点 検 評 価 項 目		評 価 に 係 る 意 見
1 ・ 1 ・ 5	豊かな自然環境を守り育むまち 2 (1) ① 3 R活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民サービスの充実と適正なごみ処理体制の維持、受益者負担の考えにより、ごみ処理資源化に取り組まれている。 ・ ごみ処理代13億4千万円に対し、市民負担2億2千万円と、市民の3Rの意識も芽生え始め、適正排出が浸透してきたように思う。 ・ ごみの排出量は目標達成されており評価するが、ごみの有料化に伴った、ごみ回収の問題、従量制などの課題もあることから、さらなる3R活動の推進に期待する。 ・ ごみ処理手数料の見直しにより、ごみ量削減に効果が出ていると判断する。 ・ 市民一人1日当たりのごみ排出量については、目標が達成されているので、計画どおり進められている。 ・ 自治体が担うごみ行政の正しい役割や必要性を啓発する取組が必要である。 ・ 多くの市民と一緒に、ごみ減量化に向けて、さらなる取組が必要と考える。